

第2回げんきプラザの在り方検討に関する有識者会議 議事概要

日時

令和5年8月22日（火） 14:00-15:23

開催方法

対面とオンラインによるハイブリッド開催
会議の様子はZOOMウェビナーにて配信

議事

げんきプラザの県立施設としての役割について

参加者（座長・副座長以下、五十音順）

坂口緑委員（座長）、青山鉄兵委員（副座長）、安藤秀一委員、鈴木秀明委員、星野敏男委員、松村純子委員

主な発言

（目指す社会教育施設像について）

- この3つを方向性の柱としていくことについては、賛成である。

- 目指す方向性1「豊かな自然を生かした宿泊を伴う体験活動が行える社会教育施設」について、気軽に利用できるという観点で、日帰りのプログラムは大事だと思うが、学校利用を促進していこうと考えるならば、宿泊を伴うことによって得るべき成果がたくさんあると思う。日帰りだとプログラムを詰め込みすぎてしまうこともあるので、子供たちと先生がゆとりをもって活動してもらうためにも、宿泊型のプログラムが重要であると考えている。

- 目指す方向性2「社会のデジタル化が進む中で、子供たちにリアルな体験を提供する社会教育施設」の前提として、「多様な子供たちへ体験活動の提供」という考え方がある。また、方向性を踏まえた機能の箇所で、「特別な支援」というワードが出てきたり、関連するものとして「不登校」もイメージできるので、方向性2の文章に「すべて」というキーワードを入れて、「すべての子供たち」という表現にしてもらいたい。

○ 社会のデジタル化が進んでいることに伴い、人間関係もデジタルで進んでいる。実際に学生を現場に行き、宿泊を伴うと、違った意見の考え方や価値観を持った学生たちが、フェイストゥフェイスで、一緒に共同生活をしながら意見を交換したり、議論したり、一つのものを作り上げる体験ってというのはデジタルの中ではなかなか生まれないものであり、リアルな体験につなげていくことは重要である。

○ 目指す方向性3「県民の生涯学習の振興の拠点となる社会教育施設」について、目指す方向性の1、2に比べると、書きぶりが抽象的であると感じる。機能の側面でもより具体的に記載していけるとよいと思う。

(げんきプラザに求められる県立施設としての機能について)

○ 自然環境が豊かな立地にある施設と、駅から比較的近い立地にある施設では置かれている環境が異なるので、今議論している求められる県立施設としての機能は、6所あるすべてのげんきプラザにおいて、あまねく当てはまるものではないように思う。

○ げんきプラザ6ヶ所の地理的条件がかなり千差万別状態なので、各施設が所有しているリソースは異なるが、施設ごとに方向性を完全に分けてしまうということではなく、求められる県立施設としての機能は、施設ごとの比重の置き方が異なるだけであって、どの施設にも共通に必要な要素はあるのではないかと思う。県立施設としてアウトラインをきっちり固めていくことにより、県民にわかりやすいげんきプラザになってくると思う。

○ 目指す方向性1に関する機能について、豊かな自然だけでなく宿泊ができるということが重要である。たとえば、仲間同士でご飯を作ったり、布団を敷いたりなど、共同で生活ができるという要素は重要である。普段できない体験の中に、自然という要素だけではなく、共同で生活できる場だということに記載できるとよい。

○ 方向性1に関する機能について、げんきプラザに体験活動の専門家がいることによって、様々な利用者が、安心して且つ安全で快適に利用できるという部分につながっていくと思う。そのことが前提としてあることにより、げんきプラザに行きたいなという気持ちになったり、げんきプラザに行くと子供たちにとっていろいろ学ぶことができるのではないかという安心感が持たれるのだと思う。

○ 方向性1に関する機能について、企業研修の場としても活用されている。かつて実施していたように、体験型の宿泊施設という特徴を生かして、教員同士

が交流するという機能を備えられるとよいと思う。

- 目指す方向性2に関する機能について、学校の教育活動をきちんとバックアップして学校教育の機能強化する施設であるということ、体験活動の専門家がサポートして、学校の教育課程を強める役割も持っているということ、方向性や機能の部分に、直接的な表現で記載してもよいのではないかと思う。
- 方向性2に関する機能について、学校現場では、不登校や人間関係調整能力が課題だと認識している。その観点から、子供たちの交流が図られるプログラムを機能として持っている则安心して利用できる。「子供たち同士の交流」というようなキーワードが入ってくると、課題解決の方向性を示せると感じた。
- 方向性3に関する機能について、生涯学習の場でもあると同時に、生き生きとアクティブに生活を送っていくための活動ができる場であると捉えられる。生涯学習の一部であるが、県民が健康的に生きていくための施設だという言葉ができる、少し厚みを持たせることができるのではないかと思う。
- 方向性3に関する機能について、げんきプラザはボランティア活動を行える場でもあると思う。生涯学習を支援するという部分を踏まえると、地域と社会とつながって活動する場という部分を具体的に記載してもよいと思う。
- 方向性3に関する機能について、げんきプラザを、生涯学習を幅広く推進していく拠点として考えた場合に、関係機関や団体等とのネットワークがすごく重要であるので、ネットワークという言葉に記載できるとよい。県有や国立、市町村の生涯学習や青少年教育施設などと連携して取組をやっていけるとよい。